

立命館 災害復興支援室

瓦版

かわらばん

【第11号】2012年8月10日発行

夏のボランティアバス 運行しています！！

災害復興支援室では、サービスマーケティングセンター、学生部とも連携し、今年の夏も継続的な被災地への学生派遣を行っています。地震・津波被害にあった地域では、がれき撤去等のボランティアニーズは減少している一方、被災された方々が平穏な生活を取り戻すための支援が継続的に必要とされており、夏期休暇中に連携拠点を中心とした震災復興支援活動として以下の6便を企画し、交通費や宿泊費等を復興+R基金から支援しています。募集は全て終了しています。

大船渡夏まつりサポートプロジェクト
今年協定を締結した岩手県大船渡市では8/3(金)から4(土)にかけ、『三陸・大船渡夏祭り』が開催されました。そのイベントにあわせスタッフ派遣を行い、「道中踊り」への参加および企画運営サポート、地域との交流を行いました。

期間：8/2(木)～8/8(水)
活動場所：岩手県大船渡市内
仮設商店街および野の田岸壁周辺
対象：部活単位および留学生
参加人数：19名
参加費：10,000円程度
(活動中の食費、入浴料金等の実費負担)
宿泊：立根地区公民館
お風呂は近隣の富山温泉沢乃湯を利用

【事前説明会】
日時：7/18(水)18:00～7/31(火)
【問合せ先】学生オフィス、サービスマーケティングセンター、災害復興支援室
岩手県宮古市への災害ボランティア(課外活動学生)派遣

岩手県宮古市には理工学部の学生・院生が中心となって建設したドーム型簡易集会所『ODENSE』があり、『ODENSE』を拠点としてさまざまな取り組みが地域住民、ボランティアによって行われています。この『ODENSE』を利用し、地元の子供たちや市民をメインとした交流活動を行いたいという課外活動団体を募集しました。

期間：8/23(木)～8/29(水)
活動場所：岩手県宮古市内
対象：該当日程で復興支援イベントを開催できる課外活動団体
募集人数：27名
参加費：10,000円程度
(活動中の食費、入浴料金等の実費負担)
宿泊：ボランティア用無料宿泊施設(仮設住宅)を利用
【事前説明会】8/3(金)
【問合せ先】学生オフィス、災害復興支援室
『スマイルエンジン山形』プロジェクト
山形大学と東北芸術工科大学の連携プロジェクトで「Smile Trade 10%」の活動として、宮城県沿岸部の被災地で、日帰りボランティアバス『スマイルエンジン山形』が2011年5月より2012年3月まで運行されてきました。本学は山形大学と包括協定を結んでおり、昨年度はこのバスにRUおよびAPU学生も参加するなど、学生・教職員の交流を行ってきました。今年度もこれまで山形大学や本学の学生が行ってきた震災復興支援活動をふまえ、今後にもつて「学生の活動をふなぐ」をテーマに、組織としてのパートナーシップについて取り組みを共同で行うこととし、『スマイルエンジン山形』共同便を運行します。

期間：8/17(金)～8/20(月)
活動場所：山形県山形市・宮城県石巻市等
対象：復興ボランティア経験のある学生
募集人数：10名程度
活動内容：スマイルエンジン山形に参加し、南三陸町において住宅跡地がれき撤去、わかめ加工工場のお手伝い他、石巻市商店街復興スタディツアー(街あるき)や学生の小グループによるテーマを決めた調査・交流企画を行います。

参加費：15,000円程度
【事前説明会】8/3(金)
【問合せ先】学生オフィス
いわてGINGA-NETプロジェクト
『夏GINGA2012』立命館便
岩手県立大学、社会福祉協議会と、県外のNPOが連携し結成された『いわてGINGA-NETプロジェクト』では、被災地の支援ニーズと学生のボランティアニーズを効果的に結びつけるため、岩手県南部沿岸

地域にアクセスのよい住田町を宿泊拠点として、岩手県内各地でのボランティア活動に参加する取り組みが進められています。昨年度は2回の連携プロジェクトを実施しましたが、今年度もこのプロジェクトとコラボし、ボランティアバスを運行します。

期間：8/14(火)～8/21(火)
活動場所：岩手県釜石市他、大槌町等岩手県沿岸南部を中心とした地域
復興支援ボランティアに初めて参加する学生を優先
募集人数：25名
活動内容：仮設住宅でのサロン活動、子ども向けの学習支援、遊び支援、お祭り等地域行事の開催支援等
参加費：21,100円(プログラム参加費20,000円+ボランティア保険加入1,100円)
【事前説明会】8/3(金)
【問合せ先】サービスマーケティングセンター
後方支援スタッフ派遣
災害復興支援室が2011年12月より企画・運行し、これまでに10便の実施を行ってきた「後方支援スタッフ」派遣をこの夏も引き続き行います。

<第11便・『遠野便』>
期間：9/4(火)～9/11(火)
活動場所：岩手県遠野市、釜石市、大槌町等
対象：立命館学生・大学院生
募集：18名
活動内容：地域づくり支援、農業支援、三陸文化復興プロジェクト(被災した学校図書館での献本作業)等
参加費：12,000円程度
(活動中の食費、入浴料金等の実費負担)
<第12便・『宮古便』>
期間：9/17(月)～9/24(月)
活動場所：岩手県宮古市
対象：立命館学生・大学院生
募集：14名
活動内容：被災地区の視察、仮設住宅における生活支援等
参加費：12,000円程度
(活動中の食費、入浴料金等の実費負担)
【後方支援スタッフガイダンス】
7/24(火)衣笠、7/25(水)BKC

【問合せ先】災害復興支援室

後方支援スタッフ派遣に伴う 教職員の引率について

災害復興支援室では第11便及び第12便の後方支援スタッフ派遣について、学生を引率いただける学内教職員の募集を同時に行います。引率業務は学生たちと寝食を共にし、被災された方々に寄り添う経験を通して、教職員としても成長できる貴重な機会です。引率に参加したいという教職員の方は、災害復興支援室までご相談ください。所属部課とご相談の上、業務としての参加に向け、調整させていただきます。
*問合せ先*災害復興支援室 担当：戸田

【後方支援スタッフ派遣 報告】

第10便・岩手県宮古市にて

清掃活動と生活支援

災害復興支援室が企画・運行する「後方支援スタッフ」派遣(ボランティアバス)第10便が、去る6/28(木)から7/3(火)の日程で岩手県宮古市を訪問。今回は学生12名、引率職員3名が参加し、現地の活動を行いました。

第10便 活動レポート

第10便は6/29(金)に東北に入り、まず宮古市観光協会が行う「学防防災プログラム」に参加し、たろろ観光ホテルと、田老のスーパー堤防を舞台に語り部さんからお話をうかがいました。



見学の様子(田老観光ホテル前にて)

これからの主な取り組み

夏期休暇中のボランティア派遣(計6便)

- ・8/2(木)～8/8(水)『大船渡夏まつり』便
- ・8/14(火)～8/21(火)『夏GINGA2012』便
- ・8/17(金)～8/20(月)『スマイルエンジン山形』便
- ・8/23(木)～8/29(水)岩手県宮古市 課外活動便
- ・9/4(火)～9/11(火) 後方支援スタッフ派遣 第11便『遠野便』
- ・9/17(月)～9/24(月) 後方支援スタッフ派遣 第12便『宮古便』

<それぞれ取り組みの詳細については、今後HPや瓦版でお伝えします。>

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していくという必要性があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しています。

津波が押し寄せてくる映像を、映像を撮った場所で見ると、よりリアルに津波の怖さを感じたり、「瓦礫の中に本来は自分たちにとってかけがえのない宝物だったかもしれないものも含まれるのに瓦礫と呼んで欲しくない」といった被災者の方々の想いを聞くなかで、学生たちからは今後の復興への想いなど積極的に質問が行われました。また6/30(土)は、これまで同様、宮古市金浜海岸の清掃を、7/1(日)は宮古市内4ヶ所の仮設住宅集会所に分かれて訪問し、傾聴活動を行いました。



海岸清掃作業の様子

【参加した学生より】
Q：気になった事、今回の派遣についてひろく伝えたいと感じたことは？
まずは現場を訪れてみて欲しいと思う。実際私も岩手を訪れるまでは、「今被災地はこんな状況だろう」と自分の勝手な予想で全てを理解しているつもりでした。そして現場を訪れて何が得られるかも全く予想がついていなかった。しかし、この機会を通して、人々の生活を大きく改善する力を持たないボランティアの限界にも気づかされ、逆に人の心にアプローチできるのはボランティアにしかできないということも学んだ。常に現場主義であること、そして現場を離れてからも関心を向け続け、今の自分ができることを探す姿勢を大切にしたい。(経済学部4回生1名)

【引率職員より】
短期間の活動ながら、学生達は非常に多くの学びや気づきを得られるようで、チームワークや個人の能力などを向上させる良い学習機会になっていると感じました。

(秘書課・森山課員)

現地最初の活動である田老地区の視察で、地元の方からは「絶えず来てくれてありがとう」という言葉を頂き、まだ何も活動をしていない中、足を運んだだけで感謝されるというのは複雑な心境であった。しかしながら、被災地の方や現地で長期間にわたりボランティア活動をしている方の共通の考えとして、メディア報道や世間の関心が薄れていくことを一番恐れられており、継続して現地に支援スタッフを派遣することの重要性を痛感した。

(国際企画課・花村課員)

東日本大震災復興支援に関わる

2011年度活動報告書を発行しました!!

災害復興支援室では、東日本大震災発生以降、立命館の教職員、学生・生徒・児童、校友、父母等が災害復興支援に関わって活動した結果を記録し、学内外に発信するための報告書を発行しました。

立命館の取り組みとして、東日本大震災発生直後には関連部課による調整会議を通じて緊急対応を行い、その後、継続的な取り組みとするための災害復興支援室設置、といった経過や学園内の学校・学部・研究科で行われてきた様々な取り組み、そして今後の活動についてまでを1冊の冊子にまとめました。可能な限り広範囲にわたる活動を網羅し、立命館が東日本大震災復興支援に関わる1年目の活動を記録するものとしています。

今後各課に配布予定ですが、支援室HPでもご紹介し、ダウンロードしていただけます。ぜひご覧下さい。



編集後記

暑い夏がやってきましたね。東北の夏といえばお祭り!夏の派遣第1号の大船渡便では校友会からお借りしたハッピーを着て学生たちが道中踊りに参加しました。現地の方々から「以前にも来てたよな」とこれまでも後方支援スタッフの赤いピスを覚えて下さっていた報告が届いていますが、このハッピーもなかなかの目立ち具合です。次号での報告をお楽しみに
立命館大学災害復興支援室瓦版【第11号】

発行人・編集 立命館災害復興支援室
075-813-8130(総合企画課内)
メール 311fukko@st.ritsumei.ac.jp
HP <http://www.ritsumei.ac.jp/rs/20110311/>